

生化学免疫統合型装置の導入に伴う業務効率化について

◎芦川 直輝¹⁾、高山 莉沙¹⁾、田村 咲樹¹⁾、児玉 由美子¹⁾
学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属静岡病院¹⁾

【背景】

当院では従来、生化学・免疫検査をベックマン・コールター（株）AU5800、ロシュ・ダイアグノスティックス（株）コバス 8000、日立ハイテクノロジーズ（株）

LABOSPECT008、

富士レビオ（株）ルミパルスプレストⅡの4台で実施していた。ルミパルスプレストⅡとLABOSPECT008のみ搬送で連結し、AU5800、コバス 8000は単独での運用をしていた。そのため技師がそれぞれの機器まで検体を持っていき測定を行っていたため検査時間の遅れが生じていた。

また、それぞれの機器に対するメンテナンス時間の増加や試薬管理の負担が大きいなどの課題があった。

これらの課題を解消するため機器更新のタイミングで

2021年1月よりロシュ・ダイアグノスティックス（株）コバス 8000（生化学免疫統合型装置）を2台導入し運用を開始した。

【装置】

ロシュ・ダイアグノスティックス（株）

コバス 8000（c702|c502|e801） 2台

【導入後】

①ほぼすべての検査が1台で行えるようになり、検査時間の短縮につながった。

②メンテナンス時間の短縮につながった。

③在庫不足、期限切れなどの試薬が減少した。

④バックアップ体制が整い、時間外でも感染症、腫瘍マーカー、甲状腺などの測定が可能となった。

⑤導入前に測定していた機器と測定原理が異なる項目があり医師から結果の解釈についての問い合わせがあった。

⑥専用機器のため使用する試薬が限られてしまい、試薬を自由に選ぶことができなくなった。

【まとめ】

生化学免疫統合型装置の導入はルーチン業務の効率化につながった。

【連絡先】

055-948-3111 （内線）1402